

多摩地域コース・プラザ(仮称)整備等事業 実施方針 別添資料 1

多摩地域コース・プラザ(仮称)整備等事業の実施にかかる基本的考え方

(青少年に豊かな体験と交流の場を 青少年社会教育施設の必要性・意義)

今日、少子化の進行や地域における人間関係の希薄化等に伴い、青少年が社会性を身に付けていく上で欠くことのできない、多様な人々との交流の経験や直接体験の機会が不足している。そのため、青少年が豊かな直接体験や多様な交流を実践することができる環境を整備していくことが必要である。

宿泊施設を含め、文化・学習、自然体験、スポーツ等の様々な活動に必要な施設を提供してグループでの活動を支援するとともに、個人も含めた多くの人々に交流や学習の機会を提供することは、こうした環境整備の一環である。

東京都は、青少年社会教育施設として、昭和 30 年代から 40 年代にかけて都内の 7 カ所に青年の家を設置し、運営してきた。しかし、近年は施設の老朽化が進むとともに、施設構成・機能、利用手続、サービス水準等において、都民の多様なニーズに十分に答えきれなくなっている。このため、東京都は、青年の家を再編整備し、新たな青少年社会教育施設として、コース・プラザ()を建設することとした。

コース・プラザは、区部と多摩地域に 1 カ所ずつ整備する計画であり、区部の施設については、既に PFI 事業として整備が進められている。青年の家は、現在までに 5 所が廃止され、水元青年の家は区部コース・プラザ開設時に、府中青年の家は多摩地域コース・プラザ開設時に、それぞれ廃止する予定である。

(新たな青少年社会教育施設としてのコース・プラザ コース・プラザの目指すもの)

新たに開設するコース・プラザには、これまでの蓄積を生かしながら、新たな視点から、施設の整備と運営が求められている。

例えば、従来の青少年社会教育施設の、煩雑な利用手続や硬直的な運営、滞在に当たっての快適さの欠如を改善し、今日の青少年等のライフスタイルや生活水準に合った施設を整備することが必要である。

また、主たる利用者層となる青少年については、従来から青年の家等を利用していた人たちだけでなく、それ以外の幅広い層の青少年の利用も視野に入れた施設の整備や運営が極めて重要である。

さらに、コース・プラザは、青少年を主たる利用者層としながらも、青少年に限らず、広く都民に利用してもらいたいと考えている。今日、多くの都民が、生涯を通じて、自ら学び、文化、スポーツ、自然に親しみながらその生活を豊かにしたいと考えている。コース・プラザは、広く開かれた施設として、青少年のほか幅広い層の都民を視野に入れながら、その施設や機能を都民の生涯学習の資源として積極的に活用していくことが求められる。

新たな青少年社会教育施設として、コース・プラザは、何よりも今日の青少年の実態や都民のニーズを踏まえた展開をしていかななくてはならない。

(新しい公共サービスの創造 PFIによる民間ノウハウの発揮)

今回、PFI手法を導入する大きなねらいは、施設の整備及び運営に、従来の行政の視点だけでなく民間の視点が加わることにより、適正なサービス水準を確保するとともに、社会の動きを見据え、幅広い活動の場を創造していくことにある。

例えば、施設提供業務においては、民間に蓄積された施設利用者(顧客)に対するホスピタリティを存分に発揮してもらうことで、個々人の多様なニーズやライフスタイルに十分に答えられる宿泊・活動施設の整備とサービスの提供を実現することができると考えている。

また、民間になじみが薄いと思われる社会教育に関わる業務については、都に蓄積されたノウハウに、民間の持つ青少年に関する情報収集・分析力、柔軟性・機動性、マネジメント力等を合わせることにより、従来にない新たな事業展開ができると考えている。その結果、これまでの青年の家等の青少年社会教育施設を利用していなかった青少年を含め、より多くの人々にユース・プラザを利用してもらうことが期待できる。

このように民間の持つノウハウを発揮してもらうことにより、青少年等の活動・交流の場として、より現実の青少年や社会の実態に即した形の事業展開が可能となるとともに、都民の生涯学習の場としても多様なニーズに合った、様々な展開ができると考えている。本事業において、施設整備だけにとどまらず、施設運営を一体のものとして民間事業者の業務としているのは、その創意や意欲の発揮に大きな期待をしているからである。

本事業においては、公と民のパートナーシップを十分に築きながら、単なる公共事業の代替や業務の委託としてではなく、しかも民間事業の単純な延長でもない、新たな公共サービスを実現したいと考えている。

(多摩地域ユース・プラザへの期待)

多摩地域ユース・プラザ(仮称)は、多様な体験活動が可能となるように、特色のある野外活動型の施設として整備する予定である。そのためには、民間の企画力を十分に発揮し、特色ある活動やプログラム等を展開していくことが求められる。

建設地である八王子地域は、多摩地域の中核都市として、また近年では学園都市として、発展を続けている地域であり、交通面では、中央線・京王線、高速道からのアクセスが可能で、野外活動・自然体験型の施設としては、多くの人にとって利用しやすい立地条件であると言える。

周辺には、山、森林、丘陵、河川など豊かな自然がある。また、農業や林業も営まれているほか、文化施設、教育・研究施設、福祉施設等もあり、体験活動の素材にも恵まれている。加えて、施設の敷地も周囲を緑に囲まれており、変化に富んだ様々な活動を展開することができると考えられる。

このような立地条件や周辺環境は、日常を離れて行う合宿や体験活動等に適したものである。こうした条件や環境に民間のノウハウが意欲的・効果的に発揮されることにより、周辺エリアも含めた本件施設の個性や魅力・特色が引き出されることを大いに期待している。そして、多くの都民に親しまれる施設として、多摩地域ユース・プラザ(仮称)を整備していきたい。